



## 序章

# パンドラの箱を開けた男

- 大統領への手紙と $E=mc^2$  12  
アインシュタインは原爆を後悔したか? 14  
エンデは語る—アインシュタインの思考のかたち 16  
パンドラの神話と現代科学 18  
あやつる者とあやつられる者 21

## 第1章

# $E=mc^2$ の神話

- 特殊相対性理論から $E=mc^2$ へ 24  
 $E=mc^2$ —物質に潜む巨大なエネルギー 26  
キュリー夫人の指紋 28  
ピエール・キュリーの予言 29  
ラザフォードとソデイー—核エネルギーのスポークスマン 32  
原爆の引き金、あるSF小説 35  
 $E=mc^2$ の社会的展開 36

## 第2章

# アインシュタインの平和運動

- 「化学戦」第一次世界大戦 40  
最初の平和宣言―「よきヨーロッパ人」 42  
ロマン・ロランとの出会い 44  
アカデミー科学のユートピア 46  
「パーセント宣言」―徴兵拒否の思想 48  
ロマン・ロランの疑念 50  
フロイトとの対話 52  
アインシュタイン、日本への愛着 54  
「世の迷いに」―ある日本人への追悼 59

## 第3章

# ナチスと科学者

- 科学は絶対的な真実か？ 62  
ナチスとドイツ的科学 63  
ドイツで抵抗した科学者 65  
徴兵拒否の思想を覆す 68  
核分裂の発見 70  
核分裂と  $E=mc^2$  72  
エンデは語る―ヒトラーは人形だったのかもしれない 74

第4章

# 大統領への手紙

- 影の男シラード 78  
核連鎖反応とは 79  
夏の日の訪問—アインシュタインの別荘 81  
運命のサイン 83  
大統領への手紙 85  
アメリカの原子核研究 87  
マンハッタン計画へ 89  
ロスアラモス研究所の科学者たちは今 91  
懐疑を抱いた少数派—ロスアラモスの科学者 93
- ドイツの原爆開発 95  
フォン・バイツゼッカーの証言 97  
ドイツ降伏—残された日本 99  
大統領への届かなかった手紙 102  
科学者による原爆投下への反対運動 104  
原爆は人命を救う? 106  
トリニティー・サイト— $E=mc^2$ の日 108  
「オオ、ヴェー!」 111

第5章

日本人への手紙

- アインシュタインへの問い 114
- 日本の反響 116
- 激論―篠原対アインシュタイン 118
- 手紙の裏の手紙 121
- 後悔しないアインシュタイン 122
- 病院の篠原正瑛 125
- エンデは語る―暴力の正当性はどこに 127

第6章

現代の科学、理想から遠く

- ギリシヤ時代とガリレオの軍事科学 130
- 「ガリバー旅行記」の中のニュートン 133
- フランス革命から原爆まで 135
- ハンフォードの環境汚染―プルトニウム工場 137
- アメリカのヒバクシヤ 139
- 告発する従業員への迫害 143
- 政府側学者に抗して―アリス・スチュワート 148
- 巨大化する科学―世界最大の粒子加速器 150
- 産業化する科学 152
- スキヤンダル―データ捏造事件 155
- 産業化の行きつく先に 157
- 枯葉剤―予期せぬ研究の転用 159
- エンデは語る―倫理マシーン 161

# 科学はどこへ行くのか

- 「世界政府」の構想 164  
戦後世界への糾弾 167  
ラッセル・アインシュタイン宣言とパグウォッシュ運動 169  
科学批判運動の中から 171  
軍事科学に抗して 173  
生物・化学兵器との戦い 175

## 終章

# 残された希望

- アインシュタイン晩年の孤独 180  
「日本の小学生の皆さんへ」 181  
エンデは語る——にもかかわらず「希望」を 182  
黒子はどこへ 186